

2004年「第6回全国ホームタウンサミット in 川崎」報告

2004年9月25日(土)～26日(日) 神奈川県川崎市

サミット IN KAWASAKI

■ 第1日：9月25日(土)

1. 基調講演 12:30～14:00 (ソリッドスクエアホール)

講師 (株)日本プロリーグ チェアマン 鈴木 昌 氏

テーマ「ピースをつなげるホームタウン」～ 百年構想も一年から

○ 鹿島のボランティアについて

業者による運営とボランティア運営の違いは
「まちのPR意識とあたたかいもてなしの気持ち」

ボランティアの持つ「チームを誇りに思い、支える意識」が「住民の横のつながり」という変化をおこし地域の活性化につながる



○ まちづくりにつながるサッカーというスポーツ

野球とサッカーの違い

	野 球	サ ッ カ ー
動き	プレー時は原則一人で判断	常に連携し全員が判断する
ゲームサイクル	ピッチャーを除きほぼ毎日可能	週一回、ホームでは二週に一度
観客	ファン・観る人は多いが核になる人が少ない	サポーター・俺たちのチームという意識
応援	スター選手の応援	特定のスター不在でも応援
選手数	多い	必要最低限に絞込み
給 料	原則的には下がらない	毎年更改、下がることもある
選手の知名度	全国区にすることで集客	個人よりチームの認知が大切

☆ 野球はサッカーより興行に近い運営であり、どちらの運営が正しいということではない

⇒ サッカーの2週に一度のホームゲーム開催のペースが「祭」の気分を生み、核になるサポーターとボランティアを成長させた



○ 大きい地方新聞の役割

地域のコミュニティの中で「人の心の変化をとりあげる」新聞(特に社会面)にできることが大事
首都圏・関西よりも、地方(北海道・徳島など)で地方新聞が発展している

サッカーはプロのゲームを通じて、地域を活性化することを目的としている
⇒ いただいたお金に対しプレーでお返しすること、それが感動を与える

鈴木 昌 氏

1935年12月15日生まれ、東京大学を卒業後住友金属工業に入社、1987年、同社鹿島製鉄所副所長時には、現在の鹿島アントラーズの前身である住友金属工業蹴球団の団長を務める
その後、鹿島運輸株式会社を経て、1994年に株式会社鹿島アントラーズFC代表取締役社長、社団法人日本プロサッカークラブの理事に就任。2000年6月からは鹿島アントラーズFCの特別顧問。2002年7月からは、日本プロサッカーリーグのチェアマン、並びに財団法人、日本サッカー協会副会長に就任し現在に至る。

II. 分科会 14:30~18:30 (ミューザ川崎シンフォニーホール)

第4分科会「ボランティアとクラブ」～ パートナーシップを考えよう ～

○ ディスカッションテーマ

- Aグループ … ボランティアからクラブに求めること
- Bグループ … ボランティアからボランティアに求めること
- Cグループ … あなたにとってのボランティアとは
- Dグループ … ボランティア仲間を増やす方法は
- Eグループ … ボランティア研修の実態とそれに求めること
- Fグループ … ボランティアが機能するための組織とは

○ タイムスケジュール

- 14:30 ~ 15:00 自己紹介 < 第4分科会参加者全員にて >
- 15:00 ~ 16:00 ディスカッション < 前半 >
- 16:00 ~ 16:30 グループごとに中間報告 < グループ代表者 >
- 16:30 ~ 16:45 休憩
- 16:45 ~ 17:45 ディスカッション < 後半 >
- 17:45 ~ 18:25 ディスカッション結果報告
- 18:30 解散



100名以上の参加者となった第4部会では、更に6つのテーマに分かれての討議となりました。仙台から参加した4名もそれぞれ別の班に入り、その中で私は「ボランティアの研修の実態とそれに求めること」という班で、話し合いを行いました。

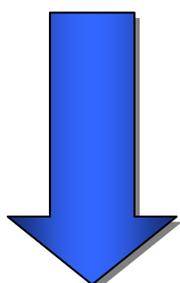
【 参加クラブ 川崎・横浜・市原・甲府・京都・柏・東京 V・徳島・仙台 9クラブ・14名 】

○ 事前アンケート結果より

大半のクラブがシーズン開幕前に簡単なマニュアルによる研修実施の段階

⇒ 問題点

- ・ シーズン途中からのボランティア参加者へのフォロー不足
- ・ ベテランと新人への研修内容の違い … 温度差への対応
- ・ 運営組織、形態の違いによる違い



ボランティアの性格の違い

- クラブ運営型 … 大半のクラブ
- スタジアム型 … 横国・神戸ウイングなど
- 後援会型 … 浦和・柏・福岡など
- 行政型 … 鹿島・広島など

○ 工夫して実施している事例

- ・ マニュアル作りも含めてボランティアが自主的に実施している
- ・ スポンサー企業の研修に参加させていただく
- ・ 体験ボランティアによって、適切な業務知識と配置をみいだす

○ 今後の研修に求められるもの

- ・ 研修の基本は楽しくやること、おしつけ型にならないように注意が必要
 - ・ 目的は「継続するための意識作り」を重点に、ある程度経験などを考慮して行う
 - ・ 可能な限り一方通行型にせず行う
- ⇒ その意味では大勢ではなくポジションや経験にあわせることも必要
- ・ リーダーやベテランには、ボランティアのコーディネート(マネジメント)の知識も必要



Ⅲ. 懇親会 19:00 ~ 21:00 (川崎日航ホテル)

サミット IN KAWASAKI

一体何人いたのでしょうか、親睦会は各クラブそれぞれのユニを着用、乾杯が終わるとあちこちで会話が盛り上がります。途中でバライティに富んだバイキング料理をいくらか食べた記憶はあるのですが、Jリーグの関係者の方々もチェアマン、理事を含めて一緒ですし、初めてお会いする人、懐かしい顔、チアリーダーの踊りをみる間もなく話し合いました。

.....

今回のサミットの特色である、次のJクラブをめざす徳島をはじめとするチームのみなさんとも名刺交換。特に有志でJリーグボランティアホームページの立ち上げを考えていたため可能な限り多くのクラブのボランティアに呼びかけるべく駆け回りました。



<仙台からはクラブ1名、後援会4名、ボラ3名参加>



考えれば「サミット懇親会」も4回目、磐田・浦和・仙台そして、川崎・・・ そのたびに規模は拡大し、ボランティアの参加も確実に増加しています。

とりわけ今年は7月にオールスターボランティアの企画があり、ひとまわりネットワークが拡大した上で、川崎でのサミットとなったことが参加者拡大につながったことと思います。

参加者はボランティアだけでなく、クラブ関係者サポート組織、行政、経済界、そして学生や学術関係者まで幅広い。けれどキーワードは「ホームタウンづくり」、それぞれのもつイメージは決してひとつではない、しかし、むしろその事が、したたかな強さを生むのではないだろうか。自ら時間と、資金を作り参加した人々の目はともかくキラキラしている、話すことで刺激を受けその刺激が次へのエネルギーになる。当然二次会に続き夜中まで盛り上がりました。



■ 第2日：9月26日(日)

サミット IN KAWASAKI

I. 分科会報告 9:00 ~ 10:00 (ソリッドスクエア・ホール)

- 第1分科会 ホームタウンって何? ... ホームタウンを作ろう
- 第2分科会 魅力あるホームゲームについて ... ようこそ楽しいスタジアムへ
- 第3分科会 支援の実情に学ぶ ... 私たちの大切なもの
- 第4分科会 ボランティアとクラブ ... パートナースhipを考えよう

第1分科会 ホームタウンって何? ... ホームタウンを作ろう

- ・ 6つのグループに分かれて、Jリーグの無い県に「仮想クラブ」を作り、どのようなホームタウン活動を行うか、成功させるかを考えた。
- ・ クラブ名、ホームタウンの場所、キャッチフレーズなど、自分たちのこととして考える手法は楽しくひとつの研修手法として今後活用できます。

第2分科会 魅力あるホームゲームについて ... ようこそ楽しいスタジアムへ

- ・ 楽しいホームゲーム ... 「ふるさとの祭」「ホームスタジアムがある幸せ」

楽しいスタジアムにするキーワード

- 雰囲気 ○ 参加 ○ 二次的楽しみ
- メモリアル ○ 地域密着 ○ 安全
- 環境を考えている



楽しいホームゲームするには

- チームカラーに染める
- 一体感を感じられる空間(歌など)
- スタジアムを満員にする
- スタジアムを自分たちの呼び方で
- 安全である



ドイツ・ローゼンブルグのスタジアムに掲げられている言葉

「歩みいるものに安らぎを、去り行く人に幸せを」

第3分科会 支援の実情に学ぶ ... 私たちの大切なもの

- ファンクラブ : クラブがサポーターに何かをしてあげる
- 後援会 : クラブに市民が何かをしてあげる

活動事例発表

ベガルタ仙台・市民後援会 / アライアンス2002 / ヴァンフォーレの会 / フォルサ稲城 / 川崎フロンターレ後援会 /

- 行政の支援は間接支援がのぞましい

第4分科会 ボランティアとクラブ ... パートナースhipを考えよう < 別紙 >

II. パネルディスカッション 10:00 ~ 12:00 (ソリッドスクエア・ホール)

テーマ「Jクラブのあるまちの未来」

パネラー

- 半田 雄一 氏 … 元サッカー批評編集長
- 川端 康生 氏 … スポーツジャーナリスト
- 藤口 光紀 氏 … (社)日本プロサッカーリーグ理事
- 陣内 誠 氏 … フジテレビ アナウンサー

Jリーグが誕生して12年、共通認識ができ、理念が実現しつつある

【ホームタウン】～ 形やものさしがあるものではないが、苦勞したクラブの方が当事者意識は高い

- Jリーグからみれば、「地域に愛されるクラブ」をめざしてきた過程でホームタウンができてきた

Jとしてのコンセプトがしっかりしていた、ことが大きなポイント

- 人・地域の条件が違いアプローチの仕方は様々、各地域ごとの「ホームタウン」があてい【好かれるクラブになるため】

- 地元自治体・市民と一緒にクラブがまちのシンボルになる
～ その過程は、「純愛を恋愛に変えて結婚に変えるようなもの」
- 地元メディアとの関係が大切
- Jリーグに伝説・歴史を作っていく必要がある
 - ・ 各クラブが持つ文化、カラーをはっきりとさせていく
 - ・ 記録はしっかり残すこと
 - ・ 物語性(個性・文化)
～ 外国ではスタジアムやグラウンドに選手の名前がついている
それになふさわしい選手をつくるのもクラブの役割
 - ・ 引退後のセカンドキャリアのシステム作りは評価できる

【プロ野球から学ぶもの】

- 毎日ゲームがあるため集客力がある
- 興行であるため、かかわる人の数や資金規模が大きい
- 紅白歌合戦のごとく風物詩となっている

【今後望むこと】

- もっと輪をひろげよう
- 各クラブの物語性を大切にしよう
- 本気(マジ)でやろう

再び来年の出会いを約束して別れた後、川崎の駅ビルのレストランに多くのメンバーが集り昼食をとりました。別れがたく忘れられないイベントでした。川崎のみなさん、ご苦勞様でした。

